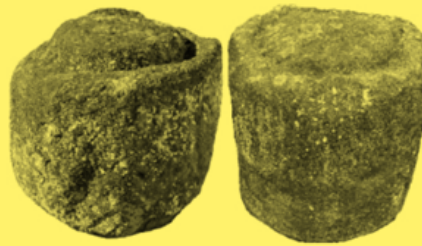




今回は、来待ストーンの屋外で常設展示している**如泥石**を紹介いたします。



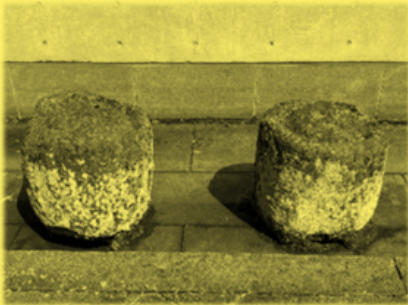
如泥石

如泥石は、松江白湯の大工町（現在の松江市灘町）に住んでいた指物大工（木工職人）・小林如泥（小林安左衛門）が考案したと伝えられている、来待石製の波止石（消波ブロック）です。

如泥石は高さ約60cm、直径約60cmの円柱で、上下には約5cm幅の溝が掘られています。

護岸材として水際に並べて設置することで、波が打ち消されます。古くは大橋川から袖師（松江市袖師町）治いの宍道湖岸や、周辺の船着場に設置され、明治後期から大正初期にかけて実施された嫁ヶ島整備の一環として、島の周囲にも如泥石が設置されていました。如泥石は現在でも、大橋川の河口付近や白湯公園（松江市白湯町）の湖岸治いなどで目にすることができます。

▶ ミュージアム



▶ 来待石工房



▶ 来待石工房



小林如泥

松江藩の御抱大工として、藩主・松平治郷（7代・不昧）、松平春恒（8代）の「御好御用」の調度品や、社寺などの建築装飾を手がけた名工です。不昧公から与えられた「如泥」の号は、「酔うて泥の如し」の意味で、酒を泥酔するまで飲んでいただけに由来すると伝えられています。

なお、作家の石川淳は、昭和32（1957）年刊行の『諸国崎人傳』で、「松江のひとはテイとはにござらない。テイと、清んで発音する。ジョテイさんである」と紹介しています。



モニュメント・ミュージアム

来待ストーン

MONUMENT MUSEUM KIMACHI STONE



2025年4月1日より入館料、体験料、施設使用料の金額が改定となりました。

〒699-0404

島根県松江市宍道町東来待 1574-1 ☎ 0852-66-9050

休館日：毎週火曜日（祝日の場合翌平日）

